日野町図書館開館30周年
記念事業に参加して

日野病院名誉病院長　井　上　幸　次

今回は、病院や医療と直接関係ないことを書いてみたいと思います。ただ、総合診療や訪問診療が要になっている日野病院には、地域のことも考えましょうというスタンスがあるので、あながち的外れではないように思います（と自己弁護）。

個人的な話からはじめますが、米子の私の自宅の近くに「ロワール」という絵本カフェがあって、食事を注文して待っている間に並んでいる絵本を読むことができます。そこで長谷川義史（よしふみ）という人の絵本に少しはまってしまいました。ヘタウマというか、一見下手そうで実に味のある大胆な絵で、大らかで愉快で、加えて文章が全部大阪弁で、大阪出身の私にはとてもなじみやすかったということもあるかと思います。食べ物が出てくる絵本が多くて、きっと作者は食いしん坊なんだろうとか、カフェとの相性がよいなあ、とか思っていたのですが、実は、このカフェには時々ご本人が来られて、奥の壁と隣の銭湯の壁には絵を描いておられ、そのせいもあって、この人の絵本が沢山置いてあるんだということを後で知りました。一度、その絵を見るために銭湯にも行ってみました。そこにも長谷川さんの絵本があって（しかもカフェにないもの）、風呂上りに時間を忘れて読みふけってしまい、外で待っていた家内に思い切り怒られてしまいました。

ですので、日野町図書館の前を歩いていた時に、その前に貼られている「長谷川義史絵本ライブ」というポスターを偶然見つけた時は、とても驚きました。７月27日に日野町図書館の開館30周年の行事として行われるとのことです。やっぱりこの人にはひじょうに縁があるんだと思い、少し引け目を感じながらも家内と一緒に参加することにしました。なぜ引け目を感じたかというと、きっと親子連ればかりで、高齢者が混じっていると少し奇異な感じだろうなと思ったのです。孫をだしにすることも考えたのですが、まだ小さすぎるのでこれも断念。ですが、当日は、ちらほらと高齢者の方もおられて少し安心しました。それと、図書館の中のスペースで作者を囲んで行われるのかなと思っていたら、小さいながらちゃんとしたホールがあって、その壇上でのパフォーマンスでした。長谷川さんは自分の絵本を朗読するだけでなく、その中に出てくる歌をウクレレを弾きながら歌ったり、前の白い大きな紙に墨で絵を書きながら紙芝居をしたり（その場で書きながらの紙芝居なんて初めてです）、会場の皆を巻き込んで手遊びをしたり、と盛りだくさんで、１時間半と結構な長さがありましたが、それを感じさせない充実したライブでした。優しくてユーモアのある飾らない人だろうと、絵本を読んで想像していましたが、まさにその通りのお人柄で、大阪弁を駆使したしゃべりに、会場から何度も笑い声が起こっていました。ただ、ご本人の朗読で、作品に改めて触れると、単に楽しいだけでなく、家族や多様性や平和に関するメッセージをそれとなく織り込んでおられることに気づかされました。

会が終わって帰ろうとしていた時に、主催者側のボランティア（？）をしておられた患者さんに会うこともできたので、少し患者さんと普段着での交流が持てたというおまけもついていて、とても幸せな気持ちで日野町図書館を後にすることができました。

こういうよい催しを企画された日野町図書館の皆さんに感謝したいと思いますし、地域の人たちにこれからもよい文化を届けていただけたらと、日野病院からもエールを送りたいと思います。心の健康あってこその体の健康、体の健康あってこその心の健康ですので。